日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行　日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3－6　電話24－2456

７６回目の終戦記念日
平和を願う市民と野党の共同で
憲法まもる政治の実現を

日本による侵略戦争と植民地支配の終結から76回目を迎えた終戦記念日の８月15日、尾村利成県議、岩田剛党東部地区委員長、田中はじめ・舟木けんじ・たちばなふみの各市議が松江イオン前で街頭宣伝に立ち、各自の決意を訴えました。

田中市議は「自分の身内の戦死者二人は太平洋と南方でなくなった。軍隊は国民を守らない。二度と戦争を繰り返さてはならない」と、舟木市議は「戦争、人権侵害、独裁という国家の過ちを繰り返させないのが憲法。平和的解決をめざす政府を」と、たちばな市議は、祖父母の戦争体験を語り「子どもたちの未来は平和でなくてはならない。住み続けられるまち目指してがんばる」と述べました。

尾村県議は、冒頭、豪雨災害の被災者にお見舞いを申し上げ、一日も早い生活再建に力を尽くすと表明。そして、「日本共産党は党をつくって99年。侵略戦争に命がけで反対を貫いてきた党として、憲法９条を守り生かし、平和な日本を子どもたちに手渡すために全力を尽くす」とし、「総選挙で政権交代を実現し、命を守る政治をみんなで実現しよう」と呼びかけました。城西支部のメンバーがプラスターを掲げて平和をアピールしました。

宣伝する（右から）田中、尾村、橋、舟木。岩田の各氏

松江市に豪雨災害の義援金届ける

尾村利成県議と市議団は３日、豪雨水害により災害救助法が適用された松江市への党中央委員会からの義援金目録を手渡しました。

上定昭仁市長は、土砂崩れによる通行止めで住民が迂回路を使わざるを得ない不便な交通状況を説明。「県道や市道、林道の被害が大きい。県とともに一刻も早い復旧に尽力したい」と語り、義援金への謝意を述べました。

尾村県議は「松江市の土砂災害要対策箇所の整備率は１７％。県管理河川の整備率は２割程度。安全・安心の松江をつくるためにも、国や県へ要望を届けたい」と述べました。

朗読劇や平和の鐘
多彩に「平和の波」行動

原水爆禁止世界大会実行委員会の呼びかけで、８月２日から９日まで世界各地で行われる核兵器廃絶を目標とする「平和の波」行動が松江市内でも多彩に取り組まれました。

２日、松江市総合文化センターでは、新日本婦人の会松江支部主催で「子どもも大人もいっしょに平和を考えよう」と朗読劇「さあちゃんとヒロシマ」公演が行われました。

朗読劇は、島根県原水協代表理事西尾幸子さん（89）が、広島の原爆で当時12、13歳だった同級生２２３人を亡くした経験を基にしたものです。

新婦人朗読サークルのメンバー、児童クラブの５年生や指導員、中学生の計11人が出演、児童約１００人と、大人50人が聞き入りました。

第二部では西尾さん本人が戦時中の防空頭巾、もんぺ姿で当時を語り「戦争はダメ、核兵器はいらないと言える人になってください」と呼びかけました。

６日は、県庁前に23人が集い、８時15分に黙とう。「なくそう核兵器」「日本政府は核兵器禁止条約に参加を」などのプラカードや横断幕を掲げてアピールしました。

今年の原水禁世界大会はオンラインで開催され、ヒロシマデー集会、ナガサキデー集会の視聴会が行われました。

また市内各地の寺院では、原爆の落とされた時間にあわせ「平和の鐘」を鳴らす行動が取り組まれました。

講演する西尾幸子さん

県庁前でスタンディングアピール

島根でも市民連合の結成を
～松江革新懇総会開く

７月17日、松江革新懇総会が県民会館で開かれ、三宅孝之島根大学名誉教授が「島根における市民と野党の共同の課題～市民連合の結成の条件～」と題し記念講演を行いました。

まず三宅氏は、「なぜ市民連合が必要か」と問題提起し、「支配勢力が少数の得票で多数の議席を獲得できる小選挙区制を導入したことが、今、逆に市民と野党の共同で小選挙区での逆転勝利の条件を生んでいる」と解明し、この秋の総選挙が「救国」の政治回復の機会になると述べました。

そして三宅氏は、「安保法制に反対して生まれた市民連合が、各地で立憲主義の回復、個人の尊厳を擁護する政治の実現と運動のすそ野を広げている経験に学び、島根でもこれまでの改憲反対、安保関連法廃止の運動を市民連合に発展させよう」と訴えました。

講演の後、松江市革新懇の第９回総会が開催され、活動経過と今後の予定、世話人の提案が行われて満場一致で承認されました。

講演する三宅孝之教授